

## 留学体験記

国際文化学科 2 年  
21016032 川上莉奈

私は 2017 年 8 月 28 日から 2018 年 1 月 9 日までの 4 ヶ月間、中国の北京師範大学に留学にに行ってきました。

私が留学しようと思ったのは、父親の単身赴任を機に海外に興味をもったのがきっかけです。海外に興味を持つようになってから、海外旅行に行くようになり、国際便で外国語を使用し働いているキャビンアテンダントにいつしか憧れを持つようになりました。中国を選んだ理由は、キャビンアテンダントへの憧れから、将来、外国語を活かせる仕事に就きたいと思ったとき、「中国語も話せるようになりたい」と思ったからです。新潟国際情報大学は派遣留学制度があるので、せっかく学ぶなら本場で学びたいと考え留学しました。

留学は、女 4 人でいきました。例年と比べるとかなり少ない人数でしたが、とても濃い時間を過ごすことができました。4 人での時間も多かったですが、それ以上に、クラスメイトや中国人の友達と過ごす時間がとても多い 4 か月間でした。もちろん、他大学からの日本人留学生もいますが、外国人留学生や中国人との交流がとても深かったです。最初は、全然話せなくて会話がうまくいかないことも多かったですが、だんだんと会話できるようになり、一緒にご飯を食べに行ったり、旅行に行ったり、卓球をして遊んだり、クリスマスパーティーでプレゼントを交換したりと 4 ヶ月間でとても楽しい時間を過ごすことができました。

食事は主に、私たちが住んでいた寮の近くの食堂や、少し離れたところの食堂をしました。中国料理は日本料理に比べ、味の濃いものが多かったですが、とても美味しかったです。特に私が好んでよく食べたのは、本場中国の餃子でした。日本で餃子というと焼き餃子をイメージしますが、中国の餃子は主に水餃子が多いです。皮がもちもちで、味の種類も豊富で、最低でも週 3 回は食べる程、美味しかったです。

生活にだいぶ慣れた 10 月には内モンゴルに行きました。11 月の中間試験の後に中国人の友達と天津というところに日帰り旅行に行き、さらに修学旅行で約 1 週間河南省というところにいたりもしました。内モンゴルはとっても寒い地域でしたが、乗馬体験をしたり、砂漠に行ってラクダに乗ったりして楽しみました。そして天津では、さまざまな中国料理を食べました。地域によって味付けや食べるものが少し違ったりするので、その地域特有の食べ物を知ることができました。また修学旅行の河南省では、歴史・文化に触れました。博物館や歴史的建造物を見に行きました。

私はこの留学でたくさんのかげがえのない友達と出会うことができました。留学メンバーとも、留学前は話したこともなかったメンバーで不安な面もありましたが、今では、一

緒にご飯を食べたり、くだらないことで連絡しあったりするような仲になることができました。また、留学先でも、外国人の友達ができ、よく「ご飯食べに行こう」と誘ってくれたり、お互いの国の言葉を教えあったり、ふざけて写真を撮りあったりと帰国後も仲良くしてくれて、笑顔でいっぱい時間を過ごすことができました。

留学を決めたときは、楽しみがとても大きかったです。正直、自分の中での中国のイメージはいいほうではなかったのですが、出発日が近づくにつれ楽しみよりは不安の方が大きかったです。ついてからも、しばらくは慣れなくて、話せなくてコミュニケーションもとれないような日々が続き落ち込むときもありました。でも、生活していく中で中国人の優しさに触れ、中国の食や文化を知っていくうち、いつのまにか不安はなくなり中国生活を楽しんでいました。学びたいことを楽しく学べて、たくさんの仲間に出会えて最高の留学生活でした。